

2024

2-3月

はしかけニューズレター

2023年度 第6号 通巻175号

2024年(令和6年)2月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 鈴木)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
- (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
- (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
- (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(2月～3月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 … 393人

グループ数 25グループ

(2024年1月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

新しい年が始まり、残念ながら暗いニュースも続きました。中には能登の震災のような厳しい現実もありますが、皆様におかれましては、どのような状況であれ、お元気でお過ごしでしょうか。何気ない日常が一層大切に感じられる時期かもしれません。さて、事務局よりお知らせがございます。3点についてご報告いたします。

■はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

年度末が近づいてまいりました。2024年度も継続して、はしかけ活動をされる方は更新手続きが必要です。はしかけ会員の皆様には別途ご案内をお送りしますので(2月下旬)、更新受付票の提出を交流係までお願いします。

本年度も博物館セミナー室での対面式での更新手続き、および担当学芸員を通じての更新手続きを行いませんのでご了承願います。(個人情報、現金の取り扱い業務による事故防止のため。)

◎ボランティア活動保険料納入の代行を博物館に依頼される方は、次の口座に3月15日(金)までに払い込みをお願い致します。(手数料別) 郵便振替口座(00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度)

※ 上記による納付が困難な場合は、はしかけ事務局までご相談ください。

※ 担当学芸員を通じての納付はお控え下さい。

ご不便をお掛けするところもございますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。

詳細は、後日送付します更新手続のご案内をご確認ください。

■2023年度 第3回はしかけ登録講座

本年度第3回目のはしかけ登録講座を2023年2月25日(日)～3月10日(日)にオンラインにて予定しております。お近くにはしかけ登録をご希望の方がいらっしゃれば、ぜひ講座の開催をご案内ください。なお、受講のお申し込みの締め切り日は2月23日(金)となっております。ご注意ください。

■令和5年度(2023年)新琵琶湖学セミナーについて

今年度の新琵琶湖学セミナーでは、2014年度から約6年間を経てリニューアルされた常設展示から、研究をもとにした学芸員の展示のこだわりを紹介します。講演会のあとは、総合討論を兼ねて、対象の展示室での展示解説も実施します(展示解説は自由参加、別途常設展示観覧料が必要です)。ぜひご参加ください! 詳細は琵琶湖博物館ホームページからご確認ください。

第2回2月24日、第3回3月23日 13:30～15:30 琵琶湖博物館 セミナー室

(鈴木 隆仁)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 29名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■11月18日(日)びわ博フェス 場所:琵琶湖博物館 実習室2 参加者:12名 ワークショップ参加者:36名+付き添いの保護者等
11月18、19日に「びわ博フェス」が行われ、うおの会は18日午後に恒例のワークショップ「お魚キーホルダーを作ろう」を出展しました。プラバンに、下絵をもとに琵琶湖の魚を書き、トースターで加熱してキーホルダーに仕上げるものです。開始前の準備は皆さん手慣れたもので、早めに準備も完了、昼食をとり午後に備えます。

ワークショップは例年通り盛況で、3回分の整理券は早々に売り切れ。次々にカラフルなお魚キーホルダーが出来上がって行く様子は、当日取材のあったびわ湖放送のカメラにもばっちり納められていました。参加頂いた皆さん、ありがとうございました。

(報告:中尾博行)

■12月17日(日) 第179回定例調査 場所:野洲川 参加者:17名 天気:晴れ(強風!)

2023年最後の調査は野洲川でした。朝からの冷え込みでとても寒く、初参加の方もおられた為、班行動はせず全員での1ヶ所での調査に急きょ変更しました。「寒い寒い」と言いながらも、「去年の方が寒かった」「こんな日に来るのはよっぽどの物好き(魚好き?)だ」と口々に話しながらの調査となりました。

琵琶湖の低水位がニュースとなっていますが、野洲川も普段より水が少なかったようです。結果としてはオイカワ、ヨシノボリ類、シマドジョウ類、タモロコなど8種(死骸を含む)を確認。

寒い中執念でアカザを採った人や、小さめのスゴモロコや立派なサイズのカマツカを採った人もいました。また死骸ではありましたがニゴイも確認できました。採取後は、寒空の河原でお魚解説。昨年12月も同じ野洲川でしたが、違った魚を確認できたことや、外来種が見つかるかもと懸念していたが見つからなかったことなど、また違った結果となりました。

今年もあつという間に過ぎてしまいましたが、調査の風景がコロナ前に戻りつつあるのが嬉しいのと、「やっぱりみんなでワイワイ同じところを調査する楽しさ」を知った1年になったと個人的には思っております。

(報告:竹元冴矢)



野洲川はととても寒かった! (12/17)



冷たい水からスゴモロコが顔を見せてくれました(12/17)

【今後の予定】

冬季は勉強会、総会を予定しています。詳細はメールにてお知らせします。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

■令和6年1月18日(木) 場所:大津市坂本 参加者:2名

「比叡山延暦寺」叡山文庫を再訪、飯道寺関連の古文書を閲覧

大津市坂本にある天台宗資料の宝庫「叡山文庫」を小森秀恵大僧正様とのご縁から閲覧させていただく機会を得た。甲賀准四国にも属する甲賀市の飯道寺や湖南市の善水寺と奈良県吉野の竹林院の古文書を中心に閲覧した。

飯道寺分限書や数種類の縁起書、岩本院と梅本院に関する書類はととても興味深い。

また、吉野竹林院の書類でも新しい発見があった。



【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヶ所」に関連した調査活動として、一ヶ所ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を開始する。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■ 2023年 12月 17日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名
2024年度の年間計画についてミーティングを行いました。

大きな変更点は活動日を第三日曜日から第四日曜日に変更。
「自然に触れる」というテーマで山歩きやその土地でのスケッチおよび吟行を行います。

各月の活動場所につきましては以下の通りです。

2024年

- 4月 三上山(花緑公園)／綿向山
- 5月 大石(立木観音)
- 6月～8月 琵琶湖博物館内での活動
- 9月 水生植物園
- 10月 田上
- 11月 びわ博フェス参加
- 12月 ミーティング

2025年

- 1月～3月 琵琶湖博物館内での活動



■ 2024年 1月 21日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名
それぞれ梅の模写、白鷺のスケッチ、博物館敷地内での吟行を行いました。

【活動予定】

- 2024年 2月18日(日) 琵琶湖博物館 オープンラボ
活動時間 10時30分～(16時)
館内でスケッチおよび吟行をします。
- 2024年 3月17日(日) 琵琶湖博物館 オープンラボ
活動時間 10時30分～(16時)
館内でスケッチおよび吟行をおこないます。

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

※ 写真は1月21日の博物館からのながめと敷地内の田んぼ付近の下荫。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ担当職員:橋本道範

【活動報告】

- 12月16日(土) 参加者:2名
工房のワラをもらって、しめ縄づくり。飾りの水引の結び方を教えてもらったが、ちょっと難しかったので四苦八苦しながら作成。次回は探検隊の活動としてやってもいいかも。
- 1月13日(土) 参加者:4名
各自の作業。綿の糸紡ぎなど

- びわたんと共催「綿に触れてみよう」 12月9日(土)
参加者:5名 体験者:13名
今年度も糸紡ぎ講習を行いました。例年、綿打ちと最後のスピンドルでの糸紡ぎが難しく、みなさん苦勞されています。今年は、糸紡ぎを上手にできる方が多く、スムーズに体験を終了することができました。



12月9日 綿に触れてみよう

【活動予定】

- 織姫の会
1月31日(水)、2月7日(水)、24日(土)、3月6日(水)、23日(土)

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

- 2023年12月の活動
- 勉強会 (参加者 8名)
日時:12月23日(土) 13:30～15:00
場所:琵琶湖博物館 実習室 2
「宇宙・惑星の物質の進化」と題して、宇宙・地球・生命を構成する元素について、Y 隊員による興味深い発表があった。

■今後の活動予定

○勉強会

日時:1月20日(土) 13:30から

場所:琵琶湖博物館 実習室1

鉱物・化石展に向けて、隊員が採取した岩石を持ち寄り、検討します。次いで、来年度の活動計画についての話し合い。

○第37回地学研究発表会に参加 (主催 琵琶湖博物館 地学研究室)

日時:2月18日(日) 13:30から

会場:琵琶湖博物館 セミナー室

参加、予定。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(7) くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) -名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■服部川での化石観察会

日時:11月26日(日) 10:00~13:00 場所:服部川(三重県伊賀市) 参加人数:6名

活動内容:三重県伊賀市の服部川の河床にて、化石の観察を行いました。現地集合した後、案内をして下さったメンバーより、服部川河床に露出している古琵琶湖層やその地層から産出する化石についての説明がありました。その後、河床に降りて、各自、河床に露出した地層の表面を観察しました。服部川に来るのが初めてのメンバー達も、イガタニシの化石や大きな二枚貝の化石などを観察することができました。11月末で寒くなるかと思われたのですが、天候に恵まれ気持ちのいい晴天の中、参加者全員で久しぶりの屋外活動を実施しました。



〔服部川に露出する古琵琶湖層について
服部川に詳しいメンバーより説明を受けました〕



〔地面と向き合いながら
化石やその産状について観察〕

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑬

日時:12月23日(土) 13:00~16:00 場所:琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ 参加人数:6名
 活動内容:今回も、今年度重点的に取り組んでいる「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニングを行いました。作業の前に、前回の服部川での化石観察会に参加したメンバーより、参加することができなかったメンバーに化石の観察会の報告があり、詳細な活動の内容と様子について情報共有を行いました。今回のクリーニングは植物化石が対象でした。初めてクリーニングに参加するメンバーがあったため、他のメンバーからクリーニング方法の説明を行い、実際にクリーニングにチャレンジしてもらいました。まず、千枚通しを使って、化石についている泥を落としていく作業で慣れてもらい、次に自分で虫ピンを取り付けたクリーニング道具を作成し、さらに細かいクリーニング作業に挑戦してもらいました。植物化石はさまざまな部位や種類が見られます。同定するために重要な部位や壊れやすい部分など、それぞれにうまくクリーニングできるコツがあるため、皆で教え合いながら作業し、さらなるクリーニング技術の向上に努めました。また、クリーニング作業の合間には、種子化石について、オープンラボにある顕微鏡とモニターを使い、植物化石に詳しいメンバーから説明を受けながら観察を行いました。一連のクリーニング作業では、数多くの実物化石をさまざまな角度から観察することができるため、貴重な機会を大切に、化石の形態や特徴をしっかり覚えていきたいと考えています。この日は15点の植物化石をクリーニングすることができ、次回の活動についても参加者で相談し、2023年最後の活動を締めくくることができました。



〔初めての植物化石のクリーニング！頑張ってます！〕



〔種子化石を観察中。特徴は？〕

【活動予定】

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑭

日時:1月21日(日) 13:00~16:00 場所:琵琶湖博物館 実習室1



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:妹尾 裕介

【活動報告】

■活動はありませんでした。

【活動予定】

■ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽にお声がけください。いつでもお待ちしております！



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:美濃部諭子

■12月24日(日) 凧作り凧あげ 参加者 8名(凧製作 4組)

昔遊びの中で、お正月を前に親子などで時間を共有し、凧作りを通してその絆を深めること、里山のかつての季節の風物詩を再現することを目的に「凧作り凧あげ」をしました。午前中の外は晴れているものの、冷たい西風が吹き寒くなりました。暖かな生活実験工房内で、大人4名子ども4名で凧を4つ製作しました。例年和凧を作ってきましたが、今回はカイト凧のからす凧に挑戦してみました。黒色のビニールごみ袋と太めの竹ヒゴ使用。ビニール袋を翹形に切り抜く作業や、竹ひご接着することにも苦戦しましたが、午前中にはなんとか完成にいたりしました。そして昼食後は皆で芝生広場に出て凧を飛ばしました。琵琶湖の風が強く、時々向きが変わるなど揚げ辛い状況でしたが、まずまず上手く飛んでくれま

した。強い風のため羽ばたきが激しく、凧の骨が剥離するトラブルもありましたがホンマ物のカラスが偵察に来るなどの現象も見られ、楽しく活動を終えることができました。



■ 1月13日(土) 里山体験教室 下見 参加者5名

山に雪が積もっている様子が見られるようになってきた1月、冬の里山体験教室の下見を行いました。冬のメインは、たき火と花炭作りです。下見では、たき火をする場所の選定や花炭の材料集めのルート歩いて、どんなものが拾えそうか確認しました。実際に松ぼっくりで花炭作りもやってみたところ、うまくできたので一安心です。花炭を作った後は、ハンモックの作り方をみんなで復習しました。できたハンモックに寝転んでみて、その心地よさを体験しました。

下見を終えた後は、たき火で沸かしていたお湯でコーヒーを飲みました。コップを忘れたメンバーは、急きよ竹でコップを作ったのですが、竹のコップで飲むコーヒーは味わい深かったです。「里山にあるものでなんとかする」というのは、里山体験教室の醍醐味だと感じました。



■ 1月21日(日) 里山体験教室 本番

冬の里山体験教室は、雨天のため中止となりました。

【今後の活動予定】

■ 3月2日(土) キノコ菌打ち・総会



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ)13名】

グループ担当職員: 芦谷美奈子

12月に入り、やっと冬らしい気候になってきた。しかし、例年に比べ、屋間10~14℃になる日が多くあり、暖かく感じるが多かった。草刈り後に成長したと思われるヒメジヨオンやマツヨイグサが花を咲かせているのも見かけた。

【活動報告】

12月3日(日) 持ち寄ったものの観察 10:00~12:00すぎ 参加者 4名

久しぶりの室内での観察。この日はオープンラボを借りての活動になった。

初めに、コケ(主に蘚類、前日に MieMu のプチ観察で教えてもらった)を観察。比較的よく見られるハイゴケとヤノネゴケを見比べた。教えてもらったのは、「(ルーペで見たときに)ハイゴケは葉先がクルンとカールする、ヤノネゴケはカールしない」だったが、両方を同時に比べて見ると分かる、そのつもりで見ると分かる、という感じで、時間がかかった。私が個人的に普段から思う見方としては、ハイゴケの方が太くてしっかりした感じ、先が黄色っぽい? 実際、乾かして保存できる状態にしてみたら、ハイゴケはごわごわと太い、ヤノネゴケは細くて糸状、だった。次にヒメタチゴケ。これは葉の部分に葉脈のように横筋(「横じわがある」と教えてもらった)が見えて、よく分かった。

その後、外のコケも見よう、ということになって博物館の外へ出ると、5mも歩かずに3種ほどのコケが採取できた。ラボへ持ち帰り、拡大してみると、ハイゴケは分かったが残り「きれいだが、葉っぱが太い!」しか分からず、そのまま終了時刻…。持ち寄った他の植物は、また次回に見ることにした。

駐車場までの帰り道では、木肌に付くヒナノハイゴケ、ウメノキゴケ(これは地衣類で、コケじゃない)など、コケが目につきすぎてなかなか進まない4人。「ギンゴケがあるよ」と言われ、逆戻りして画像を撮ったり、しゃがみ込んで観察したりし、結局駐車場へたどり着くのに20数分かかってしまい、名残惜しくもやっと終了。

12月24日(土) 特別定例会「コケのお話し」

参加者 5名

芦谷先生にお世話になり、知り合いの方に初心者向けのコケ講座をしてもらえることになった。

コケ、主に蘚類の部位の名前、大まかな見分け方や特徴を教えた後、実際に顕微鏡を使っての同定方法をみせてもらった。葉の切断面を見たり、蒴(さく、胞子体の先、胞子が入っている)の開いた先の膜を見たりするには、やはり顕微鏡10×20倍や10×40倍が必要だということ、私たちでは「〇〇のなかま」まで分かれば、充分コケを楽しめることも分かった。

お忙しい中、手配して頂いた芦谷先生、教えて頂いた小林亮平様、本当にありがとうございました。

1月7日(日) 持ち寄ったものの観察

10:00~12:00 すぎ

参加者 4名

この日もコケの観察から始まった。

シラガゴケとオオシラガゴケ(乾燥するともっと白くなる)の葉の長さの違い、オオシラガゴケは拡大して見ると葉の端が波打っている。トヤマシノブゴケは、拡大すると茎と葉の間にもややしたのものが見られた。その細いものが10×40倍で見られるのではないかと悪戦苦闘したが、なんとなく細胞が1列に糸状になっている?くらいにしか見えず、期待したほどははっきりと分からなかった。イワイトゴケは、一見、緑の糸で所々に玉結びのような小さい粒が交互に付いている。拡大して見ると、細い茎には細かい葉がびっしりと付いていて、玉結びに見えたのは、サクラの冬芽のような形の葉の固まり(ここから新しい茎が伸びるのか?)だった。ヒロハツヤゴケは、拡大すると葉の中脈がなく、葉が茎を抱くように付いていた。胞子体があり、拡大してみると帽(ぼう)をかぶったものと帽が取れてなくなったもの、蒴の蓋(ふた)がとれているものがあった。24日に教えてもらった蒴歯(さくし、蒴から胞子が出てくる部分)を見ようと頑張ったが、終了時間を過ぎてしまい、終了。

実態顕微鏡と顕微鏡を使ったが、見始めは実態顕微鏡の方でよく見てから、もっと拡大したい部分を取って顕微鏡で見る方が色や様子の違いがよく分かった。同定してもらってある個体と比べることで、身の回りのコケを1つずつ覚えていけそうな気がしてきた。

ウマスギゴケ↓



【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。 トヤマシノブゴケ→
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 2月 毎年お休み
- 3月以降は未定、 ※8月、2月の活動は、例年お休みしています
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(12) たんさいほうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

会員を主著者とする20本目の論文が、珪藻学会誌 Diatom から出版されました。

泉野央樹・洲澤多美枝・大塚泰介:西日本3河川からの *Cymbella compactiformis* の出現. Diatom 39: 47-53.

「外来珪藻ハンター」泉野会員による、大学院在学中の発見の一つです。この *C. compactiformis* という珪藻、中国の長江流域から2020年に新種記載されたばかりですが、新種報告とほぼ同時期に、日本の複数の河川から相次いで見つかるようになりました。おそらく外来種ですが、その発見時期から中国原産ではなく、最近になって東アジア全域に広がった可能性もあります。日本各地で珪藻植生が研究されてきたことにより、こうした外来種と思しき珪藻の侵入に気づくことができます。

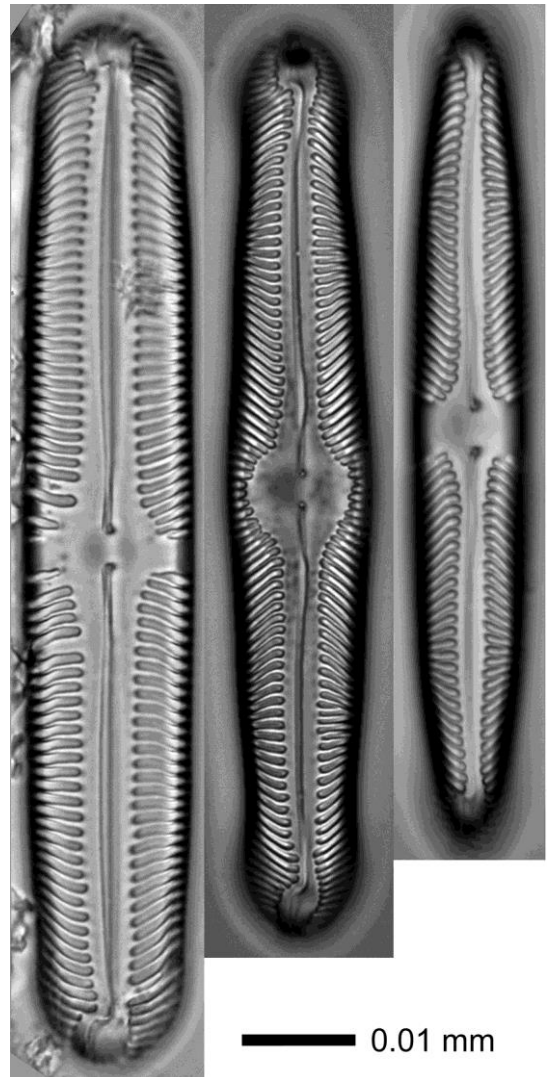
たんさいぼうの会第76回総会が、1月20日(土)14:00~16:00に、琵琶湖博物館研究交流室+オンラインのハイブリッド形式で行われました。参加者は5名(うちオンライン1名)でした。今回の主要議題は「たんさいぼうの小さな旅 in 年縞博物館」のスケジュール調整でした。他に近況報告と、冬休みの宿題の答え合わせをしました。冬休みの宿題については以下で詳細を書きます。

たんさいぼうの会ではこの年末年始、冬休みの宿題として「珪藻の詰め込み教育」に取り組む予定でした。影の会長はその材料として、年末に瀬田公園の *Pinnularia* (ハネケイソウ) の写真を整理し、同定して課題にしようとしていました。ところが最近になって撮り足された顕微鏡写真を加えて整理し直したところ、かつて16種(うち3種のみ未同定)として整理していた出現種が、実は26種にも上ることが明らかになりました。それで同定し直そうとしたのですが、他の仕事もあってなかなか進みません。そこで12月30日になって課題を急遽変更、この珪藻をインターネット上の研究資源と手持ちの文献だけでできるだけ同定することを、冬休みの宿題としたのでした。ところが模範解答をつくらうとしたところ、これがたいそう難しい。この分類群について日本有数の同定能力を持つとされる影の会長をもってしても、26種のうち確実に同定できたのは18種のみ。5種は同定に多少とも問題があり、3種はおそらく未記載種(新種)です。かつて日本における *Pinnularia* 研究の第一人者である真山茂樹先生(東京学芸大学)に同定のコツを伺ったところ「君ねえ、*Pinnularia* は分類するものじゃないよ！進化を研究する材料にするものだよ！」と言われたのを思い出しました。そして5人の会員から解答が集まりましたが、正答数は最高でも4種(+正答の可能性があるもの3種)でした。2人が同点首位でしたので、このうち期限までに解答を提出した西坂会員を優勝とし、お年玉として影の会長が四半世紀以上もの間使ってきた文献のコピーが贈られることになりました。

会員たちの活動は相変わらずゆっくりとですが進んでいます。会の活動としては安曇川(大津市・高島市)、曾根沼・野田沼(彦根市)、瀬田公園(大津市)、黒沢湿原(徳島県三好市)などの珪藻について顕微鏡写真を整理し、同定と研究論文執筆を進めています。個人活動も活発です。安達会員は、堅田内湖で見つけた *Sellaphora tanghongquii* (中国からの外来種の可能性あり)のサイズを毎月計測しています。本種が堅田内湖から初めて見つかった以来ずっとサンプルをとっており、また月によって大型殻の頻度が異なるので、有性生殖による増大胞子形成の季節性が解明されることが期待されます。富会員は、現在の珪藻の生態情報に基づいて、多賀町のアケボノゾウ出土地点周辺の古琵琶湖(蒲生層; 180~190万年前)の古環境復元を試みるという極めて野心的な試みを進め、論文として形になりつつあります。西坂会員は、自宅近くの千代川から97種(大塚が確認した限りでは100種を超えそう)の珪藻を見いだして写真を整理、同定し、しかも7割を超える同定正答率を叩きだしています。どれも素晴らしい研究成果です。しかし、影の会長が館と学会の業務で多忙な上、外来種や新種を含む新発見が次々と持ち込まれてパンクしかかっており、これが会の研究が学会発表や論文公表へと進んでいけない最大の原因になっています。

【活動予定】

今回、皆でさんざん苦労して同定した瀬田公園の *Pinnularia* を材料として、「珪藻の詰め込み教育」を行います。2月中を目処に「春休みに宿題」として出題し、第77回総会時にそれぞれの作品を持ち寄って講評を行います。たんさいぼうの会第77回総会を、3月末から4月上旬の花見シーズンに合わせて開催します。日程は桜の開花予測がある程度固まってくる3月上旬に調整します。ご関心のある方は上記代表アドレスまでご一報を。「たんさいぼうの小さな旅 in 年縞博物館」は、影の会長の都合により、現在、4月13日(土)または14日(日)で最終調整しています。なお道すがら、安曇川のみズワタクチビルケイソウの簡単な調査をしていく予定です。個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



瀬田公園産の、新種の疑いがある珪藻3種。僅かなことでも結構ですので、何かご存知の方がいらっしゃいましたら教えて下さい。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

2024年は、大きな災害や事故で始まることになりました。被害にあわれた皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。土の中でじっとしている田んぼのエビ達も、明るい春がきつとくることを心待ちにしていることでしょう。私たちも、新しい年の調査活動の方針をしっかりと考えていきたいと思ひます。

【活動報告】

・2023年12月9日:琵琶湖博物館実習室1で、2023年度の結果報告会を行いました。最初に、2023年度の調査結果をまとめた表と調査地域の地図が配布され、調査した468筆の56%にあたる262筆でエビ類の生息が確認されたとの説明がありました。ここ数年、大津市の月輪、石山寺地区においてアジアカブトエビが優勢になりつつあるものの、アジアカブトエビが大勢を占める大津市大江地区でもアメリカカブトエビが完全には駆逐されず共存しているという傾向が続いていましたが、2023年度の調査でも同様の状況が確認されました。一方、2023年度の調査では、これらの地区の南東側にあたる大戸川流域や、遠く離れた近江八幡市南東部でも、それぞれ1筆のみではあるもののアジアカブトエビの生息が確認されました。そこで、大津市の瀬田・石山寺地区における2種のカブトエビの生息状況の追跡調査は一旦終了し、2024年度はアジアカブトエビの生息域が広がっているかどうかを確認する調査へ移行する旨の提案されました。東近江市の旧五個荘町および近江鉄道八日市線沿線で実施した広域調査では、3次メッシュコードにおいて16メッシュ分の空白域を埋めることができました。とくに、13~14メッシュでホウネンエビ、カイエビ、タマカイエビの生息が確認できたほか、愛知川の西岸にあたる旧五個荘町の3メッシュでトゲカイエビも確認され、エビ類が非常に多く生息している地域であることがわかりました。さらに、2016~2017年頃に相次いで確認されたヒメカイエビの生息地のうち、高島市の安曇川流域、大津市の唐崎学区、および、甲賀市信楽町の合計15筆で、2023年度もヒメカイエビの生息が確認できたことが報告されました。そのほか、2023年度は琵琶湖博物館の金尾学芸員から6本のサンプルを提供いただきました。とくに、長浜市高月町で採取されたホウネンエビは、滋賀県内で最も北の水田での記録であり、木之本町から高月町にかけての高時川流域の比較的乾いた土壌の地域においては、時期を工夫して再度詳細に調査する価値があるのではないかという指摘がありました。

【活動予定】

・例年通り、3月に総会を開催する予定です。2月に入ったら、メールで日程についての連絡を行います。

(山川 栄樹)



(14) タンポポ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ担当職員:芦谷 美奈子

<グループの活動について>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。

<次回の「タンポポ調査・西日本2025」の調査について>

西日本調査の事務局から連絡があり、「西日本」という括りではありませんが、希望県による調査は行われることになりました。滋賀県は、調査に参加することにしました。これまでの方法を引き継ぐ取り組みとしては、滋賀県では最後のタンポポ調査になる可能性があります。

実行委員会としては、滋賀県は調査には参加はしますが、2024年・2025年の2年にわたって行われる調査のうち、1年目(予備調査と呼ばれている)調査は、諸般の事情(実行委員会の体制の問題など)により、積極的に実施せずこれまでの熱心な調査参加者に呼びかけて調査を実施する予定です。2年目である2025年には、広く一般にも呼びかけて参加型調査を行いたいと考えています。

このグループ自体、コロナで交流活動ができなかった2020年調査の際に活動が縮小しメンバーも減ってしまったため、今後はグループとしてではなく、個人で調査に参加を呼びかける予定です。引き続きよろしくお願ひいたします。

【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

(文責：芦谷)



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:松岡由子

中村久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また 10 時から 14 時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆12月の活動 12/(水) 10組(幼児12名、大人10名)

11月に収穫したサツマイモを焼き芋にしました。本当に小さなネズミサイズのサツマイモ、種類も分からないほどですが、アルミホイルにくるんで炭火の上へ。時折火吹き竹でフーフーして、「おいしくなーれ」と声をかけて、しばらく焼けるまで待ちました。どうかなあ?とアルミホイルをめくると、なんと小さいながらも黄金色に焼けていました。子どもにはちょうどいいサイズだったようで、お母さんと一緒にほおばり、みんな「おいしいー」との声でした。

工房横の小さな森を抜けて、ホワイトビーチへ遊びに行きました。森へ入る前には、ハラビロカマキリが冬を迎え、ギリギリ生きているのも見られました。ホワイトビーチは、森に守られた工房と違い、風がビュービューと吹き、お母さんたちは「寒いー」、一方子ども達は広いビーチで楽しそう。靴を脱いで砂を足で感じて走り回ります。子どもは風の子です。

◆1月の活動 1/17(水) 6組(幼児8名、大人6名)

畑のそばで、落ち葉を掻きわけてみると、そこにはなんとフキが出てきていました。小さな春。探してみると、こちらにも、あちらにも、出ています。小さな手で小さなフキを摘み取りました。香りがかぐと、まさしくフキの香り。お母さんは「あー、フキだー」と納得。バンダナおじさんに天ぷらにしてもらい食べました。まだアクが強くてくさんは食べられませんが、冬の間に春の準備をしているフキの強さを五感で感じました。

12月に続いて、お店屋さんごっこ遊びを楽しんでいます。イチイガシのドングリや、キカラスウリの実、小石などの商品を並べて、「いらっしゃいー、いらっしゃいー」と子どもが呼び込みます。お客さんは葉っぱを持ってきて、「ちょうだい」とすると、商品がもらえます。たくさん商品がもらえたり、少しだったり、無料だったり面白いお店ですが、自然を使って子どもたちは遊んでいます。

冬でもガチャコンポンプが大活躍。水遊びには夏も冬も関係ありません。濡れるのも忘れて、子どもたちはガチャコンポンプで楽しんでいます。見ている大人の方が冷たく感じるのですが、子どもから元気ももらっています。



12月 焼き芋づくり



12月 ホワイトビーチ



1月フキを割るとつぼみが



1月フキ探し。あっちもこっちも。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
2月	2月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ2月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み)
3月	3月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ3月	コロナ禍の実施についてはその都度判断します。 ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなどやさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう!



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ)17名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■ 11月 25日(土) 参加者:7名、学芸員:2名

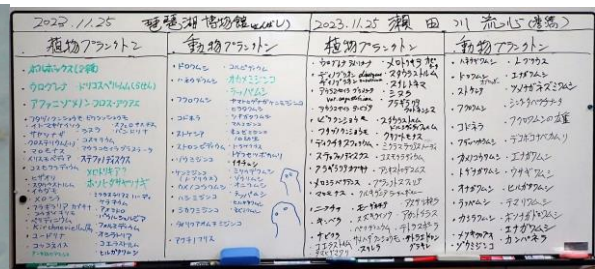
博物館前のプランクトンを観察しました。先月の活動時には植物プランクトンがほとんど見られなかったのですが今回は多くの植物プランクトンを見る事が出来ました。



採集の様子



Synchaeta pectinata



11月25日に観察したプランクトン

■ 1月 13日(土) 参加者:10名、学芸員:2名

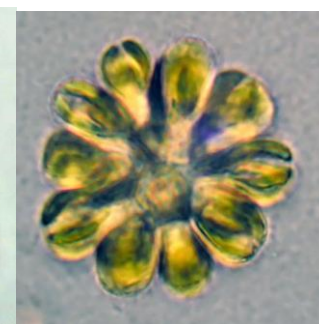
この日の琵琶湖は透明度が低く見えたのですがプランクトンネットで採集したサンプルはあまり濁っていませんでした。当会で使っているプランクトンネットの網目は40μmなので小型のプランクトンは抜けてしまいます。今回はPseudokephryonなど小型のプランクトンが発生しているようでした。



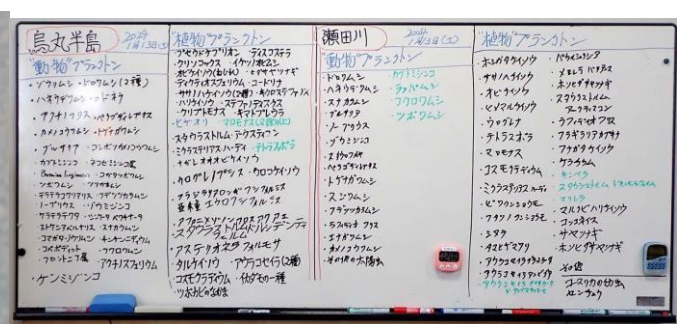
採集の様子



繊毛虫を乗せたワムシ



シヌラ



1月13日に観察したプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員:安達克紀・渡邊 俊洋

【活動報告】

■ 12月9日(土)「綿にふれてみよう」

はしかけグループ「はたおり探検隊」の皆さんと恒例のプログラムを実施しました。綿繰り機、綿打ち、糸紡ぎの工程を体験します。このプログラムは参加した全ての方(子ども・親関係無く)に体験して頂きます。親子で初めての体験をすることで、子どもの方が上手く紡ぐ事が出来たり、親よりも根気よく取り組むなど新たな一面に気付く良いプログラムでした。

糸紡ぎが終わったら、はたおり探検隊の方に糸車とはたおりの実演をして頂きました。1枚の布になるまでの丁寧な工程に、モノを大切に作る気持ちが芽生えてくれたら嬉しいです。

今年は紡いだ糸を持ち帰る為に巻きつける枝を屋外展示で採集しました。アイディアを出してくれた小さなはしかけさん♡、ありがとう。

■1月13日(土)「水鳥を観察しよう」

親子連れ17名の方に参加頂きました。湖岸にいるたくさんね水鳥を望遠鏡や双眼鏡を使って観察するプログラムです。亀田学芸員にお越し頂きました。

双眼鏡の使い方を実習室で練習し、C展示室の水鳥標本コーナーで琵琶湖の水鳥について聞いてから、いざ展望デッキへ！観察を始めると強風と雨でゆっくり観察が出来ませんでした(T_T)短い時間でしたが、観察できた水鳥は、カルガモ、マガモ、カワウ、ヒドリガモ、オオバン、ホシハジロ、トモエガモです。

観察時間が短くなったので、急遽亀田学芸員が大人のディスカバリーのスペースで標本を使っての観察会をして頂きました。ありがとうございました！

この体験を機に出会った水鳥をまた琵琶湖や河川などで探してみたり、新たな水鳥に出会えたらいいなと思います。



ほねほねくらぶ

(18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:半田 直人

【活動報告】

■12月2日(土) 参加者:2名
バイカルアザラシの解剖を行いました。

■12月17日(日) 参加者:3名
ハクビシンの解剖 テンの骨のクリーニングを行いました。
今回から新たに制作を始めたハクビシンですが、写真の通り、体に対して長い尻尾をしているので、形の似ている他の動物と見分けるときの一つのポイントになります。
このハクビシンははまだ若い個体のように見えるのですが、動物を骨の標本にした時にも年齢による特徴というのか、違いが見て取れる事があります、そういった違いに気付けるのもこの活動をしていて楽しい所でもあります。



▲制作を始めたハクビシンです。

■1月6日(日) 参加者: 3名

ミシシippアカミミガメの解剖、ハクビシンの解剖、ハクビシンの骨のクリーニングを行いました。

■1月21日(日) 参加者: 4名

カミツキガメの解剖、ハクビシンの解剖、ハクビシンの骨のクリーニングを行いました。今回から取り組み始めたカミツキガメですが、ある程度解剖を進め、前足の筋肉の形が見取れるようになると、その立派な筋肉の量に対して前足の動く範囲があまり動かなさうだという話にメンバーでなり、ではあまり素早く動いたりしないが、力が強いんじゃないか?とか、少しまえに解剖したアカミミガメはもっと動いた気がするので、それはそれぞれの生活のスタイルに違いがあるからなんじゃないかなど、メンバーの方は専門家というわけではないので、正解はわからないのですが、みんなでそんなふうにしてその形や機能、その動物の生活などについて想像を膨らませながら、思いついた事を話し合ったり出来るのはこの活動ならではのなんじゃないかと思います。



▲取り組み始めたカミツキガメです。

【活動予定】

2月は4日(土)と24日(日)に活動を予定しております。

3月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 42名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■11月21日(火) 参加者: 6名

活動内容:季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)

今年度2回目の「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」は、モミジバフウの蒸留を実施しました。蒸留は真っ赤に紅葉した葉っぱをしましたが、博物館のモミジバフウはまだ緑色でした。葉っぱをちぎって香りを確かめてみると、青りんごのような香りがします。

蒸留するとその植物によって、精油(蒸留水の上に浮いている油分)の量が異なりますが、フウは沢山の精油はとれません。しかし、最初の方の蒸留水にはしっかりと香りを感じることができました。

一般の参加者をむかえての外へ散策は、お天気もよく、気持ちの良い時間を過ごすことができました。

工房にもどり、アロマスプレーを作りました。モミジバフウの蒸留水を使用して爽やかな香りのアロマスプレーが出来上がりました。



■12月3日(日) 参加者: 15名

活動内容:アロマクラフト(実習室2)

当初は小豆ピローとロールオンアロマを作る予定でしたが、都合により3種類のアロマクラフトを作ることになりました。

ロールオンアロマとバスボムとサシェです。どれも簡単にできるクラフトで、はじめて活動に参加したメンバーもおり、とても楽しんでくれた様子でした。

- ・ロールオンアロマ…ホホバオイルに好きな香りの精油を入れて混ぜ、ロールオンボトルに入れる。
- ・バスボム…重曹・クエン酸・自然塩のシンプルな材料に精油や色粉を混ぜて作る発砲入浴剤。
- ・サシェ…化粧用コットンに精油をしみこませ、小さな封筒にいれた匂い袋。

【参加者の感想】

- ・バスボムはお湯に溶けると混ぜた精油の香りが浴室いっぱいに広がりました。
- ・どれも簡単に作れたし、いい香りでも楽しかったです。
- ・バスボムは肌がつつるすべすべになって、本当に気持ちよかったです。
- ・ロールオンアロマは気分転換にいいですね。
- ・どれも簡単に作れたので生活の一部にしていきたいです。
- ・炭酸風呂がなぜいいのかを教えてください、すっきりしました。



■12月23日(土) 参加者: 17名

活動内容:「緑のくすり箱らしい」餅花作り(生活実験工房)

お正月飾りの1つである「餅花」。緑のくすり箱では、毎年、草木染めなど、植物の色素を利用して作品を作っていますが、今年はお正月飾りの餅花に植物の色素で色をつけることに挑戦してみました。

赤は赤紫蘇、黄色はくちなし、緑はよもぎを使用しましたが、赤だけ思った色にならず、食紅を使うことになりました。

枝垂れ柳に、白・赤・黄・緑の餅をちぎってつけていき、華やかな餅花飾りができました。

今回は赤紫蘇で思った色がつきませんでした。それも結果として面白かったし、ではピンクのお餅にするには、食紅以外で何を使うときれいなピンクのお餅になるのだろうと思い、メンバーが調べてくれて、ビーツや紫キャベツなどがあるとのことでした。

【参加者の感想】

- ・餅花はとても華やかで色味の少ない季節に素敵な伝統だなあと昔の人の知恵を感じました。
- ・寒い中でもワイワイしながら楽しいひと時を過ごすことができました。
- ・赤のお餅をつけるととても華やかで愛らしくなって感激の体験でした。
- ・昔、祖父とお餅をついたあとの残りを木に貼り付けて梅の花に見立て楽しかったことを思い出しました。



■1月13日(土) 参加者: 4名

活動内容:七味作りの打ち合わせ(研究交流室)

2月に実施予定の七味作りに使うスパイスの検討を行いました。七味作りの歴史や日本三大七味の材料などを学ぶ会にしようと思います。

【活動予定】

- ・2月17日(土) 10:00~15:00 午前:七味作り 午後:廃油石鹸作り(実習室2)



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:今田 舜介

【活動報告】

■ 11月19日(日)9時半~12時 参加者:7名 場所:琵琶湖博物館生活実験工房

今回はびわ博フェスへの参加。虫架けは昨年に引き続き、館内のポスター展示とプラバン作りを行いました。10時からと11時からの2部制、各回10人の整理券は10時過ぎにはなくなる盛況ぶり。今回は蝶以外の昆虫もあり、それぞれ自分の好きな色をつけたり、じっくり時間をかけて丁寧に色を塗ったりしてプラバン作りを楽しんでいました。



■ 12月9日(土)10時~15時 参加者:8名 場所:金勝(こんぜ)周辺

穏やかな天気の中、道の駅から金勝寺方面の道でオサ掘りを行いました。シガラキオサムシ 10頭ほどとマイマイカブリ 2頭を採集することができました。午後からは横ヶ峯展望所近辺でアカガシの芽につくキリシマミドリシジミの卵探しもしましたが、こちらは見つかることができませんでした。



また、「虫架け通信」62号、63号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■ 11月19日(日)10:00~15:30 参加者:(会員)5名 (博物館職員)大槻

内容:午前中はびわ博フェス 2023 の準備とポスター説明および午後はクイズラリーを実施した。クイズラリーは予約制ではなく現地受付とした。個人又はグループのペースで樹冠トレイルと生活実験工房付近に設置した森の植物や琵琶湖に関する9つのクイズを解きながら歩いてもらった。最後は受付場所で答え合わせと必要に応じ解説を行った。実施時は風もなく比較的温暖であったこともあってかクイズの記入者は130名に達した。そのほとんどは子供でその家族を含めるとさらに多くの方が参加してくれたと思われる。クイズ内容は回答状況からみて易しすぎず難しすぎずでほぼ良かったのではないかと思われる。クイズを作成してからラリー当日まで少し時間がありツバキのように設問と果実の状態が合わなくなるハプニングもあったので今後はクイズ作成時に留意したい。



受付



クイズ問題

■ 12月9日(土)10:00~12:30 参加者:(会員)4名 (博物館職員)林

内容:太古の森(駐車場の横)でクズの除草作業を行った。以前より細いものが多く数も減っているように感じるが根絶はなかなかむずかしい。後日、会員のMさんが伐採したクズのツルを利用してきれいなリースを作ってくれた。



作業前



作業後



リース

【今後の予定】

■ 1月27日(土)10:00~12:00

内容:樹冠トレイルのツル植物の除草作業

行替 道天

(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ担当職員:安達 克紀・渡邊 俊洋

【活動報告】

昨年12月以降、活動は全く行われていません。現在、琵琶湖梁山泊は活動を完全に停止しています。元会員や卒業生たちがときどき琵琶湖博物館に遊びに来て、現在進めている研究の話などを聞かせてくれるだけです。

【活動予定】

この先の活動予定は全く立っていません。

琵琶湖博物館側の体制立て直しが必要です。琵琶湖梁山泊は琵琶湖博物館第二次中長期計画(2014~2018年)に沿って設立されたグループで、2018年~2019年頃の最盛期には2桁の会員数を誇り、また何人かの会員が華々しい研究成果をあげていました。しかし担当学芸員が相次いで交代したこともあって、コロナ禍以降はほとんど活動ができていません。今、この原稿を書いているのも、本グループの発起人である大塚です。

しかし今も、琵琶湖梁山泊に対する社会的要請が失われているとは思いません。研究が「進みすぎた」中高生たちに適切な研究指導ができる学校教員は今も少なく、またそのような中高生たちが横のつながりを確保できない状況はいっそう顕著になっているからです。中学生対象ならばこうした子どもたちをサポートする「びわ湖トラスト」の「ジュニアドクター育成塾」がありますが、高校生の、しかも部活などのグループ研究をサポートする仕組みは他にありません。

については再びの決起に向けて、仲間を集めていこうと思っています。中高生で他のはしかけグループに参加している人は、ぜひとも琵琶湖梁山泊にもご参加下さい。他分野の研究をしている中高生の仲間たちと交流し、切磋琢磨しましょう。大人のサポートメンバーも募集しています。参加ご希望の方は上記代表アドレスまで。

【活動報告・活動予定】

- 今後の活動方針について協議を進めようとしているところですが、今のところ特に進展はありません。



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

- 令和5年11月17日(金) 9:00-12:00 曇り 参加者 5名

1. 活動先: 東近江市 大林町一帯
2. 調査目的。

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は、湖東地域の旧愛東町域で最大規模の新田開発が行われ、新たな村が誕生したという現在の東近江市大林町を訪問し、その歴史と現在の集落の様子を調査、確認した。

3. 調査地域の概要。

- 1) 江戸時代の旧愛東町の新田開発について。

江戸時代は、「国力の充実を目指し全国で新田開発が行われた。領主にとっては年貢の増収を図ると共に領民にとっては新たな生活の糧を提供することにもなった。規模的には既存の村内拡充である「村添開発」と、新村の設置に至る「村立開発」とがあった。旧愛東町域では後者の「新田開発」にあたる大林新田の開発が行われたが、一部では「村添開発」も行われていた。新田開発は彦根藩により宝暦九年(1759年)から始まり、当時大覚寺村領に設置されていた「御林」と呼ばれる藩有林において行われ、約70年かけた開墾の結果、愛東に地に新しく大林村が誕生した。

- 2) 大林地区の開墾での実績として。

大林の地区の開墾は段階的に実施させた。各時代の成果として、明和9年(1772年)には6町2反1畝15歩、天保11年(1840年)には10町8反4畝1歩、明治4年(1872年)には11町9反3畝17歩、大正8年には(1919年)17町11反、昭和55年には(1980年)21町・畑2町となった。と「大林歴史委員会編 大林の創設と変革より」の図書に記されている。

- 3) 灌漑・用水関係について。

高野街道に沿って土手が築かれ、その西側に集落が形成されている。その高野街道沿いに「カクイ井」と書かれた引水口が二カ所、また集落の北・南および下中野と接する西側に溜池が作られた。耕作地の増加に伴う灌漑・用水を賄っていたと思われる。都度、灌漑・用水不足を補うために、溜池の底堀築堤工事、豊国川からの樋を渡した新たな水路作りなどが行われたと、「大林歴史委員会編 大林の創設と沿革」の図書にも記されている。近代では、愛知川ダム completion 等で灌漑・用水条件が好転し、祖先伝来の苦勞と決別した。

- 4) 住民の移動について。

耕地の開墾に伴い住民の移動も進められた。生活を営むためには様々な生活条件の整備が必要となる。生活条件の整備として百済寺山子への新規加入が挙げられる。百済寺山子とは、柴等の供給地として百済寺持山を利用する村々のことで、村として成り立つためには、柴の供給地が不可欠となる。単に耕地を開墾するのではなく、村としての存在を明らかにする努力が必要となる。

- 5) 村の人口の推移はとして。

人口統計からみると、旧愛東町各集落同様、大きな変動がみられない。当地は土地の用途規制により住宅開発などができないという地域にかかわらず、その要因として当地の神社の地元行事である神主制度が残っていることによる村を守る制度。(簡略化されてはいるが面々と継承されている。)或いは「大林営農組合」を設立してJAに任せず地域内で高齢化農業への対策を独自で行っていることも大きい。稲作だけでなく、梨園、角井西瓜の栽培も手掛けている。先人たちが開拓した大林井水路、溜池からの引水で必要な水量を確保できていることも大きな要因であるのでは。

- 6) 集落内を歩いてみると。

集落内は時折、車が通り抜ける程度で静かな佇まいの集落である。

- ① 稲荷神社の参道への入り口には大きな自然石の燈籠がある。向かいの大木の根元には20体程の地蔵が積みかさねられていて人の往来を見守っている。石の鳥居をくぐると社務所があり本殿と続く。丸みを帯びた石を積み上げた石垣の上に建っている。更に石垣の上で本殿を囲う塀の各隅には竹の幹と葉を模した飾り瓦が鬼瓦風に飾ってあった。(何を意味しているかは不明であるが…)

- ②玉泉池(上の池)の跡地は現在、埋め立てられ大林集落センターとして活用されていた。池の後ろ側は埋め立て前の土が現存していた。愛知川第一幹線用水の大林分水栓表示も確認できた。
- ③並木池(下の池)は現在、埋め立てられて集落の果実の集荷センターとして活用されていた。ここから北と東方向を見渡すと愛東マーガレットステーション方向に向けて河岸段丘の裾野に整備された農地が拡がり、誘致された工場が点在している風景が見られた。
- ④「はとの親水公園(水鳥の休憩地)」は小田刈町の旧八反野池(はたのいけ)である。昔の溜池を新愛知川地区地域用水機能推進事業としの一環で整備された公園があり、訪問時には水鳥の休憩場所となっていた。



■大林集落の現街並み



■稲荷神社参道地藏さん



■稲荷神社本殿の二重屋根



■本殿の各角の飾り瓦



■玉泉池(上溜池)



■並木池(下溜池)跡

【活動報告】

■ 令和5年12月14日(木) 9:00-12:00 晴れ 参加者 6名

1. 活動先: 東近江市 小倉町一帯
2. 調査目的:

今回も、前月に引き続き、湖東地方の愛東地区の中でも山林を含め広大な耕作地を有する集落の一つである、小倉町の現地調査を行い集落内の様子や用水路(小倉井やカワト跡)のなごり、背後の小倉城址、段丘上の広大な耕作地の様子を見聞した。

3. 調査地域の概要

- 1) 小倉町集落の概要と歴史について。

旧愛東町東南部の愛知川右岸段丘崖下に位置し、耕作地が右岸低地から集落背後の段丘上に広がる。東は外(愛東外町)、西は青山(青山町)に接している。古代から耕作化が進んだ愛知川右岸は、奈良から平安時代にかけて「延暦寺領小椋荘」が置かれており「小倉村」の由来である。土豪小倉氏にちなんだとも伝えられる。19世紀初頭、小倉村でも彦根藩の管轄下の元、新田開発が行われた。対象地は集落東側の斜面であったと推測される。

- 2) 小倉城址について。

中世小倉氏は、河岸段丘の天然要害を利用して、段丘上に築城していた。現在の集落の北東辺にあり、本丸跡や土塁がみとめられる。集落から城址へと続く坂道は両側の崖の石垣はこの地域の特徴である愛知川河原にある角が取れた丸みの帯びた小石を積み上げたものである。現地の案内板には、承暦年間に清和源氏の末裔、小倉景実が築城し、西側に本丸の遺構が、東側に土塁を空堀によって区画されている曲輪群が拡がっていた。現存する土塁は低く、空堀は小規模で平面空間が広く取られていることから居住施設としての居館群の要素も兼ね備えていたと推測される。との記載があった。

- 3) 小倉町の耕作地について。

耕作地としては、大正8年(1919年) 66町5反(水田60町8反・畑5町7反) 山林は106町3反、原野が10町6反。昭和55

年(1980年)では耕作地は93ha(水田85ha 畑7ha)と東近江市愛東の歴史・第一巻資料編に記載されている。

- 4) 灌漑・用水の状況について。

田は河岸段丘上段と愛知川沿いの下段に分かれており、段丘上段は棚上川を水源とし、八反溜池と他の二つの溜池を利用、下段は「外・小倉井」用水を利用していたが、現在は、全て永源寺ダム水系で賄われている。八反溜池は、周辺を関西電力高圧線遮蔽所として買収され鉄柵に囲まれている。用水として使用されていない。また、「小倉井」用水のなごりは集落幹線沿いの側溝水路として残っている。

5) 集落内を歩いてみると。

集落の前を走る幹線道路から坂道を登りきるとすぐに河岸段丘の上段部に到着する。集落の各戸は大半が広い敷地で昔風の日本建築の住宅様式が多い。集落中央部の公民館前に庚申塔の石碑が建つ。敷地は大半が曲がりくねった集落内の道路に面している。中腹の道路沿いにカワトが残っていた。段丘の伏流水が染み出ているのが源であったのか、昔は水脈からの水量も多かったかも知れない。曲がりくねった道は敵の侵入からの防備も意味があったのかもしれない？

- ①西の地蔵が集落内の西端にあたる所の小さな祠に祀られていた。
- ②豊満神社が集落の西の外れに鳥居とお社がある。祭殿横の石置の道も愛知川の河原から集めた丸石が敷き詰められていた。19世紀初頭の建立とされる本殿は出色の装飾を持つ作例とされ、脇社の春日神社本殿とともに雪囲いの二重屋根に覆われていた。
- ③河岸段丘上段には、整備された水田が北と西方向に広がっていた。北側山麓は平野町集落で山の中腹の墓地は東光寺本堂も望めた。



■小倉町西の地蔵



■河岸段丘上段からの風景



■小倉城址への石垣の道



■小倉城址碑

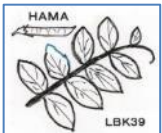


■集落内に残る「カワト」



■豊満神社の本殿

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

2023年12月05日(火) 9時30分~11時30分
 天候:曇り 気温:(6°C(9時30分) 10°C(11時30分)
 参加者:4名 今日の琵琶湖:水位-69cm

観察状況 *曇り空で寒く感じるが風はない。すっかり冬模様。
 水位が下がり浜には三カ所の干潟ができています。波は穏やかで規則正しくさざ波が押し寄せている。浜の除草もスムーズな作業日。



干潟のできた新海浜

活動内容 ①ミーティング(今日の予定) ②保護区内及び浜の草取り(メドハギ・コマツヨイグサ・チガヤ等)

海浜植物

- *ハマエンドウ : 落ち葉に包まれて茎が広がり葉も緑が濃い。黄色の落ち葉と緑のハマエンドウの色合いがきれいだった。
- *ハマゴウ : 枝も葉も枯れて種が一面に落ちている。枝には種がついている。
- *ハマヒルガオ : 葉も枯れて見つけることが難しい。



西側保護区外のハマエンドウ



葉も枯れてきたハマゴウ



ハマヒルガオ

作業の様子 (浜の草取り)



メドハギを根から掘り起こす

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(12月～2月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、
必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 わら細工	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、わら細工作業を体験して頂きます。	2024年 2月4日	日	10時30分～ 12時30分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※多少汚れても よい服装をご準 備ください。 (受付時間 10 時00分～) ※要事前申込
耳石すごいぜ!!	魚の中にある耳石を取り出して観察してみよう! 耳石をつかった研究やいろいろな魚の耳石も見ることができよ!	2024年 2月4日	日	10時00分～ 12時00分	実習室2	※汚れても良い 服装でお越しください。
【わくわく探検隊】 ミニ水族展示をつくらう!	水族展示の裏側や工夫など、普段聞けない話を聞いたり、実際に展示している魚をモチーフにしたミニ水族展示を工作します。琵琶湖に棲む魚を身近に感じることができるプログラムです。	2024年 2月10日	土	13時30分～ 15時00分	実習室2 水族展示 室	※雨天決行
ちこあそ・2月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024年 2月14日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
はしかけ登録講座 (オンライン)	琵琶湖博物館のはしかけ制度の概要を説明するとともに、はしかけ各グループの活動内容を紹介します。また、はしかけ制度への入会手続きを同時に行います。	2024年 2月25日 ～ 3月10日		左記期間のうち任意の時間 (1時間30分程度)	オンライ ン	※登録にはボラ ンティア保険料 350円が必要 ※要事前申込

4. 生活実験工房からのお知らせ

12月には「しめ縄作り」のイベントを開催しました。今回も、多数のはしかけ会員の方に応援いただきました。ありがとうございました。毎年、好評のイベントで今回もたくさんの方に参加いただきました。イベント終了後には、皆さまそれぞれの出来栄に満足されていたようでした。良き一年となることをお祈り申し上げます。

さて、1月の休館日には職員により工房の田んぼで「どんと焼き」を行い、お正月のお飾りなどを燃やしました。(燃やした灰は田んぼにまいて肥料にします。)また、今年もどんと焼きと並行して、妹尾学芸員が弥生土器の再現実験をされていました。妹尾学芸員の古代の稲作や土器に関するお話は大変興味深く、どんと焼きに参加していた職員も聞き入っていました。



12/17 しめ縄作り①

さて、今後の工房でのイベントの予定は下記のとおりです。

(一般参加の場合は受付終了致しました。応援スタッフとして参加頂ける場合は環境学習・交流係までご連絡ください)

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房

2月4日(日) わら細工

担当：環境学習・交流係



12/17 しめ縄作り②

5. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。